

## <会長表彰を受けて>

池田 和人 技術士（化学・総合技術監理）



### 1. はじめに

この度は、過大な表彰を賜り、身が引き締まる思いでございます。この表彰は、技術士と日本技術士会の発展に努めよとの鼓舞激励だと受け止めています。今後は、微力ではございますが、役目を全うすべく、これまで以上に研鑽努力して参る覚悟でございます。

私事で恐縮でございますが、私は、2010年に化学部門の技術士、2011年に総合技術監理部門の技術士となり、現在、中部本部幹事、統括本部化学部会幹事、中部本部化学部会代表幹事、中部本部三重県支部幹事、中部本部 CPD 委員会委員、中部本部活用促進委員会委員を務めさせていただいております。技術士は、「知る人ぞ知る難関資格」でございますが、言い様を変えれば「あまり知られていない難関資格」でございます。今後、技術士と日本技術士会の評価度向上と認知度向上に向け、持続的で効果的な施策を実行していきたいと考えています。

### 2. 人を育てる

ここ最近の世界の現況を見ますと、かつて世界を席卷した日本企業は大きく力を落としました。例えば、スイス IMD の世界競争力ランキング 2021 によりますと、日本の競争力は、昨年より多少順位を上げたものの、いまだ先進諸国の末席を争う始末でございます。2000年に世界2位であった日本の一人当たりの GDP は、今や世界23位に落ち込み、これまで「科学技術立国」を称してきた日本は、今や他国主導の技術に追いつくことで精いっぱい状況でございます。

一方、デジタル化や脱炭素の時代になりましても、成長は人が作るものでございます。よって、日本の技術力ひいては競争力を高めるためには、人を育てる必要がございます。私は、技術士の評価度向上と認知度向上に向けた施策は、技術士のためというより、日本の競争力向上のためになされるべきではないかと思えます。技術士そして日本技術士会の日々の努力が社会に認められ、技術士取得が全技術者の目標になれば、技術者は技術士取得を目指して努力するようになります。そうなれば、技術者自らの意欲に任せて自然に人が育ち、国力が自然にレベルアップ致します。

技術士試験は、決してテクニカルな側面に特化されるものではございません。世界情勢を知り、業界を知り、そして何より課題を抽出する能力と解決する能力がなければ技術士にはなれません。全国の技術者が技術士を目指してこれら広い分野を学び、技術士自らが日々の研鑽努力を積み、企業や団体あるいは国のかじ取りを担う技術者人材が育つのではないかと思います。

### 3. 最後に

私は、この6月30日に、29年間勤めた化学メーカーを退職致しました。今後、独立技術士として世に尽くせないかと考えています。独立の身は生活の保証がございませんので、将来への不安はぬぐい切れません。しかし今は、未来の可能性に希望を持とうと考えています。

この度は、過大な表彰を賜りまして、本当にありがとうございました。今後も、微力ながら、技術士そして日本技術士会の発展のために尽くす所存でございます。皆様方には、今後も引き続きお世話になりますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。